

小学校国語科（５年）指導プログラム

学校名 栗石町立七ツ森小学校

対象学級 ５年（男子８名 女子１０名 計１８名）

指導者 笹川修一

単元名「地球環境について考えよう」

単元設定の理由

1 教材観

説明的文章の指導では、これまでに第２単元「海にねむる未来」の学習をとおして具体的な事例や資料を示すことによって、話や提案に説得力をもたせるといふ、本単元の学習の前段階の学習を行ってきた。本単元は三つの教材から構成され、まず、二つの説明文教材から接続詞や文章構成などの相手を意識した表現の工夫に着目させ、それを共通するテーマである地球環境を守るための提案に生かしていく。

「一秒が一年をこわす」は、第一のまとまりで事例を挙げ、第二のまとまりで筆者の考えを述べ、第三のまとまりで中心的な意見を述べる三つのまとまりから構成されている。それぞれのまとまりの要点をまとめて要旨をとらえるなかで、具体的な事例を積み重ねて読み手を説得する手法や接続語の効果的な使用などの表現の工夫に気付かせるとともに、「子ども環境会議」の発表での表現の工夫にも役立たせるものである。

「ホタルのすむ水辺」は、各事例が具体的事実とその解説の組になって述べられており、一文が短いこと、修飾表現が限られていること、構成が簡潔であることなどから分かりやすい文章になっており、報告文の手本となる文章である。

この二つの教材文から身のまわりの環境問題への関心を高め、相手意識や目的意識をもたせて「『子ども環境会議』を開こう」で環境を守るための具体的な提案を行う。発表にあたっては、伝えたいことを整理したり表現の効果を確かめながら工夫させたりすることや、音声による発表を効果的なものにするために、発表資料は大変重要となってくる。

本教材は、説明文の学習をもとに自分の考えを分かりやすく伝え相手を説得するための表現の工夫を行いながら発表資料を作成し、その中で学習指導要領に示されている「書くこと」の能力を高めることができる教材構成となっている。

2 児童観

児童はこれまでに様々な形態の文章にふれてきており、説明文においても筆者の考えを読み取り要旨をまとめる学習を行ってきた。また、説明文では相手を説得する手だてとして、具体的な事例を挙げながら自分の考えを述べる文章構成や接続詞、文末表現など、筆者の表現の工夫についても学習してきた。そして、学習したことをもとに自分たちのテーマを決めて情報を収集し、新聞にまとめたり発表したりする学習活動を体験してきた。

しかし、本校の児童は収集した情報をもとに発表を行う学習はしてきたものの、目的や意図に応じて適切に選択し配置して、表現の工夫を行いながら発表資料を作成する力は十分とはいえない。平成 14 年度の観点別学力検査の結果では、書くことの領域で「考えが伝わる工夫をして書くこと」についての得点率が 66.7% となっており、他の領域に比べて低くなっている。また、小問内容でみると「表現の効果を考えて書くこと」や「適切な文末表現を選ぶこと」「段落の関係を理解すること」「文章の内容を要約すること」など、関連する内容に落ち込みが見られる。

これは、発表資料作成の過程において、記述を始めてから構成や記述を修正したり資料を必要なたちに加工したりすることが困難であったり、児童の作業速度が一定ではないために時間的な制約が出てきたりするため、表現の効果が十分理解できていないものと思われる。

したがって、説明文教材をとおして学習した表現の工夫を発表資料の作成のなかで行わせ、その効果を確かめながら理解を深めさせたい。これによって、自分の考えを相手に伝える力を身に付けさせたいと考える。

3 指導観

本単元では、地球環境について課題意識をもち、自分たちにできることを会議の場で提案する学習活動を

とあして、伝え合う力の育成を目指している。「一秒が一年をこわす」と「ホテルのすむ水辺」の二つの説明文の要旨をまとめることによって地球環境に関心をもたせるとともに、テーマについて調べたことから聞き手に提案する内容を明確にすることで相手意識や目的意識をもたせたい。学習活動においては、必要な情報の収集、文末や接続語の使い方、全体の構成など説得力のある資料作成を行うなかで児童の「書くこと」の能力を高めていきたいと考える。そのために、発表を前提としたときのような手順で資料を作成していけばよいか、コンピュータ教材を用いることによってポイントを押さえながら活動を進めたい。

単元の指導目標

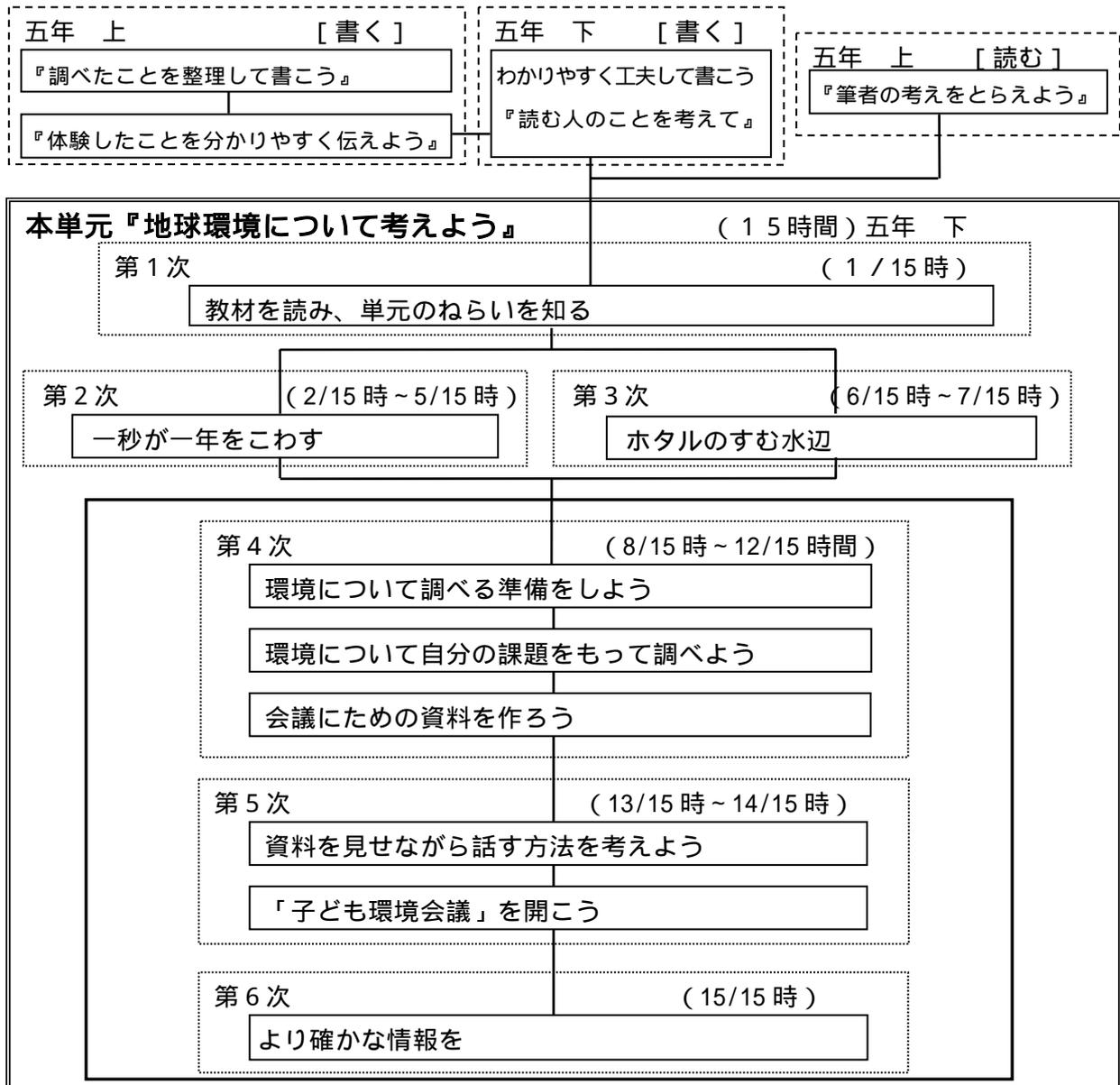
相手意識や目的意識を明確にもち、自分たちの課題について進んで調べ、考えを発表しようとする意欲を育てる。

環境に関して自分たちができることを、資料を提示しながら提案することにより、話す能力を伸ばす。

調べたことのなかから必要な事柄や資料を選び、わかりやすく効果的な資料を作成することができるようにし、書くこと的能力を伸ばす。

書かれている内容について、事例と感想・意見を押しえながら要旨をとらえることができるようにし、読むこと的能力を伸ばす。

単元の教材構造



単元の指導計画と配当時間

次	学習の流れ	学習活動	時数
1	・地球環境という視点からわたしたちの生活に目を向け、人類の課題について考えよう	・「一秒が一年をこわす」「ホテルのすむ水辺」「『子ども環境会議』を開こう」の三教材に目を通し単元のねらいを知る。 ・「一秒が一年をこわす」の全文を読み通す。 ・題名について考え、発表し合う。	1
2	・地球環境の問題をとらえ筆者の考えを読み取ろう	・三つの意味段落ごとに要点をまとめる。その際、具体的な事例をとらえ、筆者の考えを読み取る。	2～4
		・全文の要旨をとらえる。 ・筆者の考えを知り、自分なりの考えをもつ。	5
3	・筆者の訴えたいことを理解し、自分の生活や身の回りの出来事について考えよう	・「ホテルのすむ水辺」を読み、筆者の意図を探る。 ・筆者の意図をふまえ、自分の生活や身の回りの出来事について考える。	6～7
4	・自分が関心をもった環境問題について調べ、学級の仲間にも知らせるための発表資料を作ろう	・「一秒が一年をこわす」「ホテルのすむ水辺」の学習を受け、自分の身の回りにある環境問題のうち、興味のあるものを選び、調べ学習を始める準備をする。	8
		・同じ傾向のことを調べようとしている人と、グループを作って調べ学習を行う。	9～10
		・「何を、どのような方法で調べた結果、何が分かったか」が伝わるように工夫して資料をまとめる。 ・環境のために提案したい具体的な活動を考える。	11～12
5	・環境について話し合おう	・小グループによる分科会を設定し、出された意見から発表資料を効果的に使った発表の方法を考える。	13
		・調査の結果を交流し合う中で、今、自分たちの力でも環境を守るためにできることについて、具体的な方法をまとめる。	14
6	・より確かな情報を得るため、伝えるためにはどうしたらいいか考えよう	・教科書 P.57 の内容を読み取る。 ・「子ども環境会議」の際の情報収集や発表の時に気を付けたことを振り返って書く。	15

第4次(8/15時)「環境問題について調べる準備をしよう」の学習指導

1 主題 「環境問題について調べる準備をしよう」

2 指導目標

- ・二つの教材文から身の回りの環境問題に関心をもつことができる。
- ・「子ども環境会議」の中で提案することを前提にテーマを決め、調べ学習の見通しをもつことができる。

3 目標行動

教材名	主な学習活動	評価規準
「子ども環境会議」を開こう	身の回りにおける環境問題のうち興味のあるものを選びテーマを設定する。	関 身近な環境問題から興味のあるものを選び、調べ学習の準備をしている。 (観察・ワークシート)

4 下位目標行動とその関連

環境を守るために自分にできることを考え、述べることができる。

調べた環境問題と身近な環境問題の共通点から、環境を守るために必要な考えをもち、コンピュータ教材に入力することができる。

自分で調べた環境問題や教材文で取り上げている環境問題と身近な環境問題を比較し共通点と相違点を見つけることができる。

教材文で取り上げている環境問題について分かったことを述べるすることができる。

R 「一秒が一年をこわす」の筆者の考えを例にして環境についての問題点を述べることができる。

R 「一秒が一年をこわす」で述べられた事例と要旨を読み取ることができる。

R 「ホタルのすむ水辺」の筆者の考えを例にして環境についての問題点を述べることができる。

R 「ホタルのすむ水辺」で述べられた事例と要旨を読み取ることができる。

自分で環境問題について情報を集め、分かったことを記述することができる。

インターネットによる情報収集で分かった環境問題とその原因や影響をメモすることができる。

インターネットによる情報収集で分かった環境問題について、その原因や影響に気付くことができる。

インターネットでの検索により環境問題として取り上げられている事例を探することができる。

R ソフトウェア(ブラウザ)の基本的な操作方法が分かり、情報の検索ができる。

テキストの入力と変換ができる。

R コンピュータの基本的な操作ができる。

図書資料による情報収集で分かった環境問題とその原因や影響をメモすることができる。

図書資料による情報収集で分かった環境問題について、その原因や影響に気付くことができる。

図書資料を使って環境問題について調べることができる。

環境問題について取り上げた図書資料を見つけることができる。

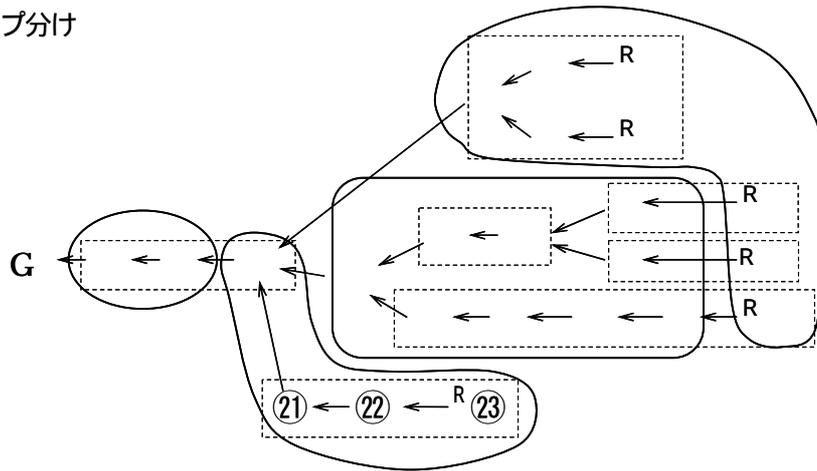
R おおまかな本の分類が分かり、図書の検索ができる。

②① 身近な環境にみられる問題点とその原因として考えられることを挙げることができる。

②② 身近な生活環境の様子を具体例を挙げて述べるすることができる。

R ②③ 環境問題として取り上げられているいくつかの事例がわかる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
6分	<p><導入></p> <p>1 既習事項の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 前提条件 (R R R) 2つの教材文で取り上げられていた環境問題の事例 中心となる筆者の考え (R R) <p>2 課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題提示 課題確認 <p>学習課題</p> <p>身のまわりの環境から問題点を見つけ自分の課題をもとう。</p>	<pre> graph TD Start[はじめ] --> Decision{各事例と要旨が想起できたか} Decision -- NO --> Review[紙板書で前時までを振り返る] Review --> Decision Decision -- YES --> Step1[筆者の訴えから身近な環境問題の中で自分たちにできることを提案することを確かめる] Step1 --> Step2[学習課題を設定する] </pre>	<p>前時までに学習した2教材の紙版書</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一秒が一年をこわす」、「ホテルのすむ水辺」の二つの教材で取り上げられた環境問題とその影響を確認する。 二人の筆者の主張から自分たちに示された課題を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境に見られる問題点に視点をあて、筆者の考えとの共通点から学習課題に対する意欲付けを図る。 <ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えと話し合いの結果から学習課題を提示する。
	<p><展開></p> <p>3 環境問題の概要調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる項目の確認 () 調べる方法の選択 調査 () () ワークシートに記述 () <p>4 身近な環境に見られる問題点の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた結果との共通点 (R 23 22 21) 場所、様子、原因の予想 	<pre> graph TD Step3_1[環境問題について調べる手段を確認する (話し合い)] --> Step3_2[例示しながらワークシートの書き方を確認する] Step3_2 --> Step3_3[/選んだ情報収集手段を使って調べわかったことを観点ごとに記入する/] Step3_3 --> Decision2{身近な環境との共通点がわかったか} Decision2 -- NO --> Step4_1[関連する場所の確認] Step4_1 --> Decision2 Decision2 -- YES --> End[1] </pre>	<p>図書資料、インターネット、教科書 コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書以外の環境問題を探すなかで自分たちにも関わる問題であることに気付かせ、興味関心を高める。 調べた方法、主な原因、現状をワークシートに記録させる。 <p>コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことをもとに身近な環境との共通点に着目させる。 同様の問題があると思われる場所と概要を記述させる。

34分	<p>5 調べたい環境問題のテーマ設定 () [評価1] 自分の課題を見つけ、テーマを設定することができたか</p>		<p>コンピュータ教材 ・実際に活動することを前提に調べてみたい環境問題と実行可能な提案を書かせる。</p>
5分	<p><まとめ> 6 本時のまとめ (G) 7 学習の振り返りと次時予告</p>		<p>板書 ・発言内容から例を紹介し、身近な環境に見られる問題を確認する。</p> <p>ワークシート ・本時の学習の自己評価と感想をワークシートに書かせる。</p> <p>・環境問題ごとにグループ分けをし、発表資料作成のための情報収集を行うことを伝える。</p>

- 7 資料および教材・資料
- 教科書 5年下
 - 環境に関する図書資料
 - 自作コンピュータ教材
 - コンピュータ
 - パンフレット など

第4次(9/15時~10/15時)「必要な情報を集めて整理しよう」の学習指導

1 主題 「必要な情報を集めて整理しよう」

2 指導目標

- ・さまざまな情報収集手段の中から、必要な情報を得るために、課題に合った方法を選んで調べることができる。
- ・自分の課題を解決するために、必要な情報を集めて分かったことを書くことができる。
- ・調べたことの中から必要な事柄や資料を選び、整理することができる。

3 目標行動

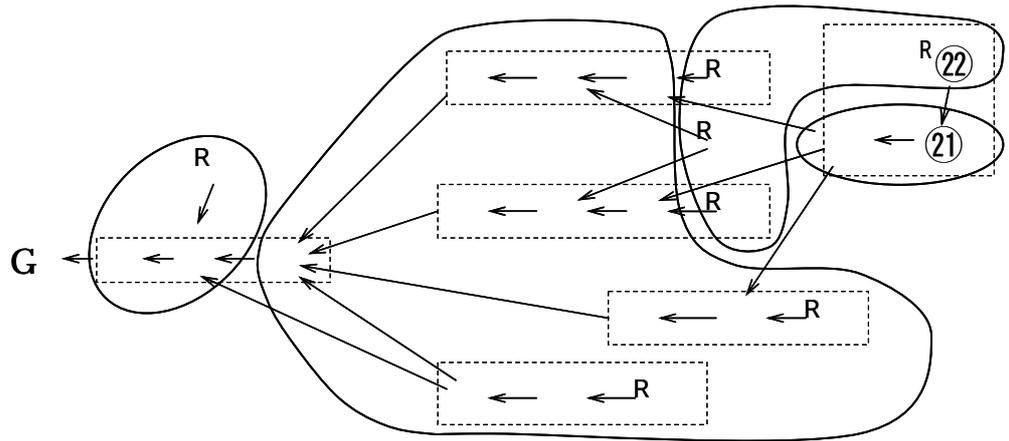
教材名	主な学習活動	評価規準
「子ども環境会議」を開こう	自分が興味をもった環境問題について調べ、発表の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 必要な情報を得るために、課題に合った方法を選び、調べている。(観察) ☑ 自分の課題を解決するために、必要な情報を集めカードに書いている。(コンピュータ教材) ☑ 調べたことの中から必要な事柄や資料を選び整理している。(資料・カード)

4 下位目標行動とその関連

事例と感想・意見を区別して書くことができる。(コンピュータ教材)
 収集した情報の中から必要なものを資料として選ぶことができる。

- R 文章を短くまとめて書き表すことができる。
- 一つの事例について複数の情報を比較し、正しいかどうか判断することができる。
- 必要な情報を選んで印刷したりデータとして保存したりすることができる。
- インターネットを用いて自分の課題に必要な部分を選んで情報収集ができる。
- コンピュータの基本的な操作方法が分かり、検索に必要なソフトウェアを扱うことができる。
- R キーボードによるテキスト入力ができる。
- 図書資料から収集した情報を資料としてコピーしたり引用したりできる。
- 図書資料から自分の課題に必要な部分を選んで情報を収集することができる。
- 必要な情報を得るための図書資料を探すことができる。
- R おおまかな本の分類やマナーが分かり、図書館を正しく利用することができる。
- 質問項目を選び、インタビューによる情報収集ができる。
- 必要な情報によってインタビューする相手を見つけることができる。
- R インタビューの際のマナーが分かり、ていねいな言葉遣いで話すことができる。
- 著作権に配慮した情報の活用ができる。
- 作成した人の権利(著作権)を考え、配慮すべき点を述べることができる。
- R 情報の発信者がいることに気付くことができる。
- R 表やグラフから情報を読み取ることができる。
- テーマについて調べるのに適した手段がいえる。
- ⑳ さまざまな情報収集手段について長所と短所がいえる。
- R㉑ 情報収集の手段を複数いえる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
10分	<p>< 導入 ></p> <p>1 既習事項の確認 ・ 調べたい事柄とグループの確認 ・ 前提条件 (R R R²²R)</p> <p>2 課題把握 ・ 活動内容の確認 ・ 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題 身の回りの環境問題からテーマを見つけて、くわしく調べよう。</p> </div> <p>(G)</p>	<p>はじめ</p> <p>グループのメンバーと調査を行う環境問題を確認する</p> <p>活動の見通しをもって調査の目的を話し合い、学習課題を設定する</p> <p>調査を行う目的がつかめたか</p> <p>NO → 環境に関わる活動の興味を振り返る</p> <p>YES</p>	<p>グループ編成表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたい問題ごとに事前にグループ分けを行い、確認のみとする。 ・ 1グループ3名を基本とし、活動に主体的に関わりやすくする。 <p>・ 全体計画表で完成までの流れを確かめ、調査活動の位置づけをつかませる。</p> <p>・ 話し合いの結果から学習課題を設定し、提示する。</p>
	<p>< 展開 ></p> <p>3 調べる方法について話し合い ・ 情報収集の手段 ・ それぞれの収集手段の特性 ・ 手段の選択 ・ 同じ対象について複数の手段で調べる理由 (21)</p> <p>[評価 1]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>選ぶ根拠をはっきりさせて情報収集手段を決めることができたか</p> </div>	<p>環境問題について調べる手段について話し合う</p> <p>紙板書により、それぞれの手段の特性と複数の手段で調べる理由を確認する</p> <p>情報収集の手段を選択できたか</p> <p>NO → 具体的な資料を示して判断させる</p> <p>YES</p> <p>1</p>	<p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの調査活動を振り返り、それぞれの手段の効果的な活用方法を考えさせる。 ・ 収集手段の選択は、どのような情報を得たいのかという視点からも考えさせる。 ・ 具体例を挙げて複数の方法で調べる必要性をつかませる。 <p>・ グループ討議で選んだ理由を述べさせる。</p>

<p>4 テーマの話し合いと必要な情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・選択した収集手段を使って集める。 () () (^R) ・事柄と関連する資料を整理する。 (^R) () <p>[評価2]</p> <p>集めた情報を項目ごとに短い言葉でまとめて書いているか</p> <p>5 書く必要のある事柄と資料の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマとの関連から事柄と資料を選択 (^R) <p>[評価3]</p> <p>必要な事柄と資料を関連させて整理しているか</p>	<p>1</p> <p>事前調査をもとに伝えたい相手とテーマを書く</p> <p>選択した手段で調査活動を行い、わかったことを記録する</p> <p>必要な情報を集めて整理できたか</p> <p>NO できそうなことを挙げさせる</p> <p>YES</p> <p>集めた情報から、書く必要のある事柄や資料を選ぶ</p> <p>事柄や資料を選ぶことができたか</p> <p>NO 選ぶ観点を確認する</p> <p>YES</p>	<p>コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に活動することを前提に調べてみたい環境問題と実行可能な提案を書かせる。 <p>コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる対象について事例(場所、原因、影響など)と自分の考えを分けて記述させる。 ・図やグラフなどの資料は必要な部分だけ選んで収集させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報は事例と関連する資料がわかりやすいように整理させる。 ・コピーや印刷など著作権に配慮した扱いが必要なことを伝える。 ・インタビューは事前に質問内容を送り、相手の都合に合わせて行わせる。 <p>コンピュータ教材、収集した資料、メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマや目的、伝える相手、わかりやすさなど、選ぶ観点を伝える。 ・資料は必要かたちに加工することの必要性を伝え、目的に合わせた使い方をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・選ぶ観点にしたがって、考えがより伝わると思われるものを5～6事例程度選択させる。
<p>73分</p> <p><まとめ></p> <p>6 本時のまとめ (G)</p> <p>7 学習の振り返りと次時予告</p> <p>7分</p>	<p>本時の学習を振り返りワークシートに記入する</p> <p>次時の予告をする(教師講話)</p> <p>おわり</p>	<p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の自己評価と感想をワークシートに書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・整理した事例と資料をもとに発表資料として構成することを伝える。

- 7 資料および教材・資料
- 教科書 5年下
 - グループ編成表
 - 環境に関する図書資料
 - 自作コンピュータ教材
 - コンピュータ
 - パンフレット など

第4次(11/15時~12/15時)「発表資料にまとめよう」の学習指導

1 主題 「発表資料にまとめよう」

2 指導目標

- ・事例と感想・意見を区別し、聞き手に分かりやすいように工夫した資料を作ることができる。
- ・発表資料が伝える相手や目的にあった表現になっているか確かめることができる。

3 目標行動

教材名	主な学習活動	評価規準
「子ども環境会議」を開こう	調べたことを整理し、発表することをまとめる。	☑ 聞き手に分かりやすいように、工夫した発表資料を作っている。 (資料・カード)

4 下位目標行動とその関連

推敲したことをもとに改善することができる。

受け手の立場になって作成した資料が適当かどうか判断することができる。

構成にしたがい、記述と資料を配置して発表資料にまとめることができる。

文末表現や接続語など、意図にあった表現の工夫をして書くことができる。

事例と感想・意見の述べ方の違いから、文末表現を区別して記述することができる。

接続語のはたらきが分かり、段落をつなぐ適切な言葉を選ぶことができる。

表現が変わると受け手に対する考えの伝わり方が違うことに気付くことができる。

R 既習のさまざまな表現の工夫の仕方を述べることができる。

事例や感想・意見などを述べる順序を考え、聞き手に分かりやすいように全体を構成することができる。(コンピュータ教材)

構成の違いによる、受け手に対する伝わり方の変化に気付くことができる。

R 教材文の説明文の学習から、発表資料での一般的な構成を述べることができる。

得られたデータを相手や目的に合わせて図やグラフに描いたり、直したりすることができる。

テーマや提案したいこととの関連を考えて必要な資料を選ぶことができる。

さまざまな資料の提示方法の長所と短所がいえる。

R 資料の提示方法が複数いえる。

R 著作権に配慮した資料の使い方を複数いえる。

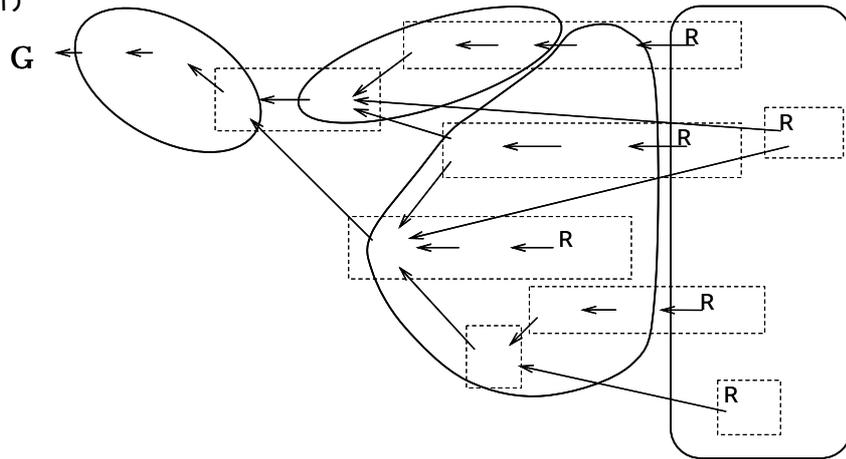
グループでの話し合いをもとに、だれにどんなことを伝えたいのか、自分の役割や作業内容は何かなどの共通理解を図ることができる。

グループで話し合ったことをもとに、自分たちが提案したいことをまとめることができる。

R グループ討議の仕方が分かり、意見を述べることができる。

R コンピュータ教材を使って入力ができる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
10分	<p><導入></p> <p>1 既習事項の確認 ・調査活動で得られた事例と資料の確認 (R R) ・前提条件 (R R R)</p> <p>2 課題把握 ・活動内容の確認 ・課題設定</p> <p>学習課題 調べたことを整理して提案を伝えるための発表資料にまとめよう。</p> <p>(G)</p>	<p>はじめ</p> <p>必要な情報が得られたか計画にてらして確かめる</p> <p>活動の見通しをもって調査の目的を話し合い、学習課題を設定する</p> <p>発表資料作成の目的がわかったか</p> <p>資料の有無によるわかりやすさの違いを示す</p> <p>NO</p> <p>YES</p>	<p>コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマや提案とのつながり、受け手にわかりやすい内容などの判断の視点を示す。 ・全体計画表で完成までの流れを確かめ、調査活動の位置づけをつかませる。 ・話し合いの結果から学習課題を設定し、提示する。 ・教材文を参考に既習の表現の工夫が重要であることをおさえる。
	<p><展開></p> <p>3 構成と表現の工夫について話し合い ・基本的な全体構成(序論、本論、結論) (R) ・事例と感想・意見との区別 () ・表現の工夫の効果(接続語、文末表現) ()</p> <p>[評価1] 書きたい事柄に必要な表現の工夫が分かったか</p>	<p>基本的な構成や考えの述べ方、接続語や文末表現の違いによる効果を話し合う</p> <p>例文を使って記述のしかたを確かめる</p> <p>記述のしかたがわかったか</p> <p>表現の工夫を絞って提示する</p> <p>NO</p> <p>YES</p> <p>1</p>	<p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の全体構成例や筆者の記述を提示して効果やはたらきをつかませる。 ・実際に書く活動を行うことによって表現の工夫を確かめさせる。 ・記述の負担とならないように、推敲で見直しができることを伝える。 ・役割分担で受け持つ記述内容によって必要な記述のしかたを考えさせる。

<p>75分</p>	<p>4 分担にしたがい記述 ・役割分担 ・作成用紙への記述 ・くわしくするために必要な資料の選択 ()</p> <p>5 シナリオをもとに全体を構成 () [評価2] 図やグラフなどの資料を使って受け手にわかりやすい効果的な資料を作っているか</p>		<p>コンピュータ教材、作成用紙 ・書いた文章を互いの読み合わせ、表現の効果について確認させる。</p> <p>コンピュータ教材、作成用紙 ・必要に合わせて図や表などの資料の簡単な加工を行わせる。</p> <p>・シナリオにしたがい全体を構成してまとめさせる。 ・つながりに適した接続語が使われているか確かめさせる。</p> <p>・発表資料の構成や表現の工夫について推敲を行わせ目的にあったものになっているか見直しをさせる。</p>
<p>5分</p>	<p><まとめ> 6 本時のまとめ ・全体構成 ・表現の工夫 ・グループの協力 (G)</p> <p>7 学習の振り返りと次時予告</p>		<p>ワークシート ・本時の学習の自己評価と感想を観点ごとにワークシートに書かせる。</p> <p>・作成した発表資料を中間発表で検証し、必要な修正を加えることを伝える。</p>

7 資料および教材・資料

- 本単元の教材文
- 収集した各グループの資料
- 環境に関する図書資料
- インタビュー記録
- 自作コンピュータ教材
- コンピュータ
- 発表資料の作成用紙(記述用)

第5次（13 / 15時）「発表資料を見直し子ども環境会議での発表方法を考えよう」の学習指導

1 主題 「発表資料を見直し子ども環境会議での発表方法を考えよう」

2 指導目標

- ・分科会形式で小グループでの中間発表を行い、出された意見を参考にして発表資料に必要な修正を加えることができる。
- ・「資料を見せながら話すとき」を参考にして相手の様子を確認しながら発表資料を効果的に使った発表方法が分かる。

3 目標行動

教材名	主な学習活動	評価規準
「子ども環境会議」を開こう	「資料を見せながら話すとき」と他のグループの意見を参考に子ども環境会議の準備をする。	話 話の組み立てを工夫し、資料を提示しながら発表する方法が分かる。 (発表・意見)

4 下位目標行動とその関連

修正した発表原稿をもとに発表資料の提示方法や話す順序などを確認し、グループで共通理解を図ることができる。

発表資料や発表方法の見直しにしたがって、発表原稿の修正ができる。

アドバイスカードや意見を参考に発表資料の推敲を行い、構成や記述など必要な修正を加えることができる。

発表資料の修正が必要な理由がいえる。

R 発表資料を作成する目的とその役割がいえる。

発表原稿をもとに資料を見せながら発表することができる。

目線や速さ、声の大きさなど、話すときのポイントがいえる。

R 話し方で考えの伝わり方や発表の印象に違うことに気付くことができる。

他のグループの発表について、良い点や改善点を意見として伝えることができる。

評価の観点にしたがって、アドバイスカードに書くことができる。

他のグループの発表を聞いて、わかりやすい発表にするための改善点がいえる。

他のグループと自分たちのグループの提案を比較し、良い点に気付くことができる。

評価のポイントに気を付けて、他のグループの発表を聞くことができる。

教科書の「資料を見せながら話すとき」を参考に、発表を聞くときの評価項目に気付くことができる。

R 発表を聞くときや意見を述べる時のマナーがいえる

説明に合わせて発表資料や機器の準備ができる。

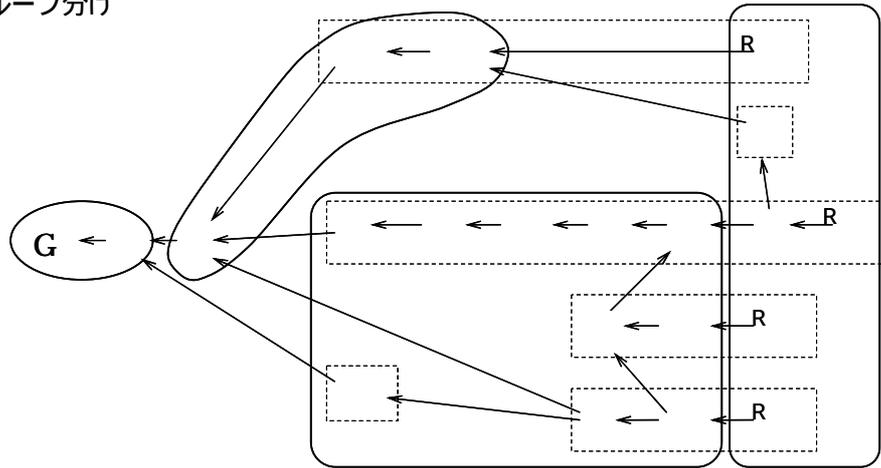
分担にしたがって発表原稿を書くことができる。

グループ内で提案内容や役割分担などの共通理解ができています。

R グループでの練習方法が分かり、自分から参加できる。

子ども環境会議に向けて分科会を行う目的が分かり、話し合いに参加できる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
3分	<p><導入></p> <p>1 本時の活動の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども環境会議中間発表の進め方 プログラム 発表資料と原稿の準備 (R R R R) <p>2 課題把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動内容の確認 課題設定 () <p>学習課題</p> <p>子ども環境会議での資料を生かした発表のしかたを考えよう。</p> <p>(G)</p>	<p>はじめ</p> <p>分科会の進め方と発表の順番、発表資料について確かめる</p> <p>子ども環境会議の目的を再確認し、学習課題を設定する</p> <p>分科会を行う目的がわかったか</p> <p>NO → 活動に取り組みきつかけを振り返る</p> <p>YES</p>	<p>発表資料、発表原稿</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループでの分科会形式とし、発言者の偏りがないようにする。 <p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体計画表でこれまでの活動をおおまかに振り返り、地球環境会議の位置づけをつかませる。 分科会で出された意見を参考にして発表資料を生かした会議につなげることを確認する。
	<p><展開></p> <p>3 分科会での発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表とアドバイス <p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめのことば めあて 各グループの提案 <ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表 質問、意見 各グループへのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> アドバイスカードの記入 アドバイス おわりのことば <p>()</p> <p>()</p> <p>[評価1]</p> <p>相手グループの発表に対して改善点をアドバイスできたか</p>	<p>作成した発表資料をもとに分科会で自分たちの提案を発表する</p> <p>「資料を見せながら話すとき」の観点についてアドバイスをする</p> <p>発表に対するアドバイスができたか</p> <p>NO → もっと詳しく知りたことを聞く</p> <p>YES</p> <p>1</p>	<p>発表資料、原稿、コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案の内容とともに発表する側と聞く側のマナーを確認する。 発表に必要な機器などは事前に準備し、入れ替えの間を最小限にする。 進行役は聞き手側に分担させる。 <p>アドバイスカード</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を見せながら話すときの観点にしたがってカードに記入させる。 アドバイスは相手の内容の良い点にもふれ、励ましの意味ももたせる。 <p>資料の使い方や話し方について具体的なアドバイスができているかを評価する。</p>

<p>37分</p>	<p>4 発表資料と方法の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の内容 ・話し方 ・資料の提示の仕方 () <p>[評価2]</p> <p>自分の立場を明確にして質問や意見を述べることができたか</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいだけでなく自信を持って発表ができることにもつながることをおさせる。 ・具体的にどのような点を見直せばよいか、必要に応じてアドバイスする。 <p>・アドバイスカードと見直した内容の関連を見て評価する。</p>
<p>5分</p>	<p><まとめ></p> <p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会での発表 ・アドバイス ・見直した内容 (G) <p>6 学習の振り返りと次時予告</p>		<p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会の自己評価と見直した内容、感想を観点ごとにワークシートに書かせる。 <p>・本時の学習を生かし、次時は子ども環境会議で全体に自分たちの提案を発表することを伝える。</p>

7 資料および教材・資料

教材文

紙板書（資料を見せながら話すときの観点）

発表資料

アドバイスカード

ワークシート

発表に必要な機器類

第5次(14/15時)「環境のためにできることを話し合おう」の学習指導

1 主題 「環境を守るためにできることを話し合おう」

2 指導目標

- ・調査内容について話の組み立てを工夫し、資料を活用しながら分かりやすく発表することができる。
- ・環境問題について自分の立場を明確にし、相手の意見と比較しながら意見を述べるすることができる。

3 目標行動

教材名	主な学習活動	評価規準
「子ども環境会議」を開こう	「子ども環境会議」を開き、自分たちのできることを話し合う。	<p>話 話の組み立てを工夫し、資料を活用しながら発表している。 (発表・質問)</p> <p>話 環境問題について自分の立場を明確にして、意見を出し合っている。 (発表・質問)</p>

4 下位目標行動とその関連

環境を守るために自分たちにできる活動を理由とともに述べることができる。

環境を守るために自分たちに何ができるか考えることができる。

他のグループの提案と自分たちの提案を比較し、良い点に気付くことができる。

他のグループの提案が、自分たちの提案とどこが違うかに気付くことができる。

発表を聞きながら、他のグループのテーマや提案内容を理解することができる。

会議の中で必要なことをメモしながら発表を聞くことができる。

伝えたい内容や工夫した話し方に気をつけて、資料を活用しながら自分たちの提案をすることができる。

グループで話し合ったことをもとに、自分たちが提案したいことをまとめることができる。

発表原稿をもとに、聞き手が分かりやすい発表になるように工夫することができる。

目線や話す速さ、声の大きさ、資料の提示方法など、発表時のポイントがいえる。

発表の形態が分かり、発表者の配置や役割を決めることができる。

グループでの話し合いをもとに自分の役割や作業内容を確認できる。

自分たちのグループがだれにどんなことを伝えたいのか、共通理解ができています。

発表に向けた役割分担と練習方法の共通理解ができています。

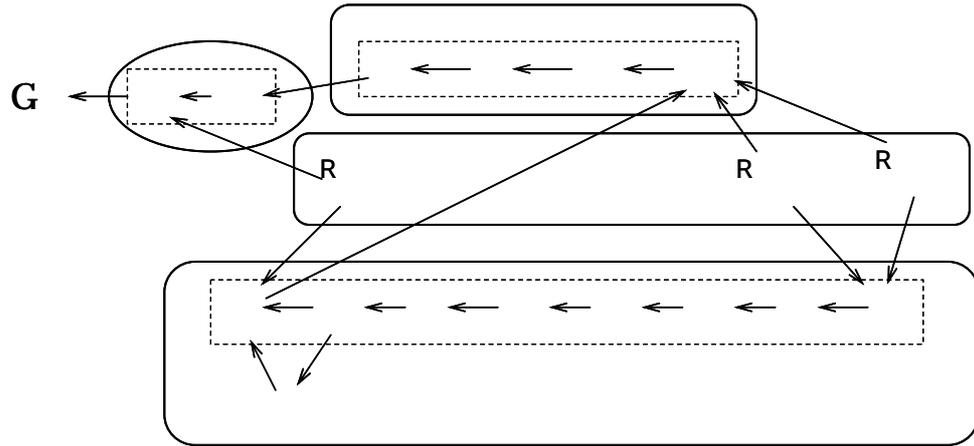
R 意見と質問を区別し、はっきりと自分の考えを話すことができる。

説明に合わせて必要な資料の提示ができる。

R 司会進行や会議記録の方法が分かり、必要な準備ができています。

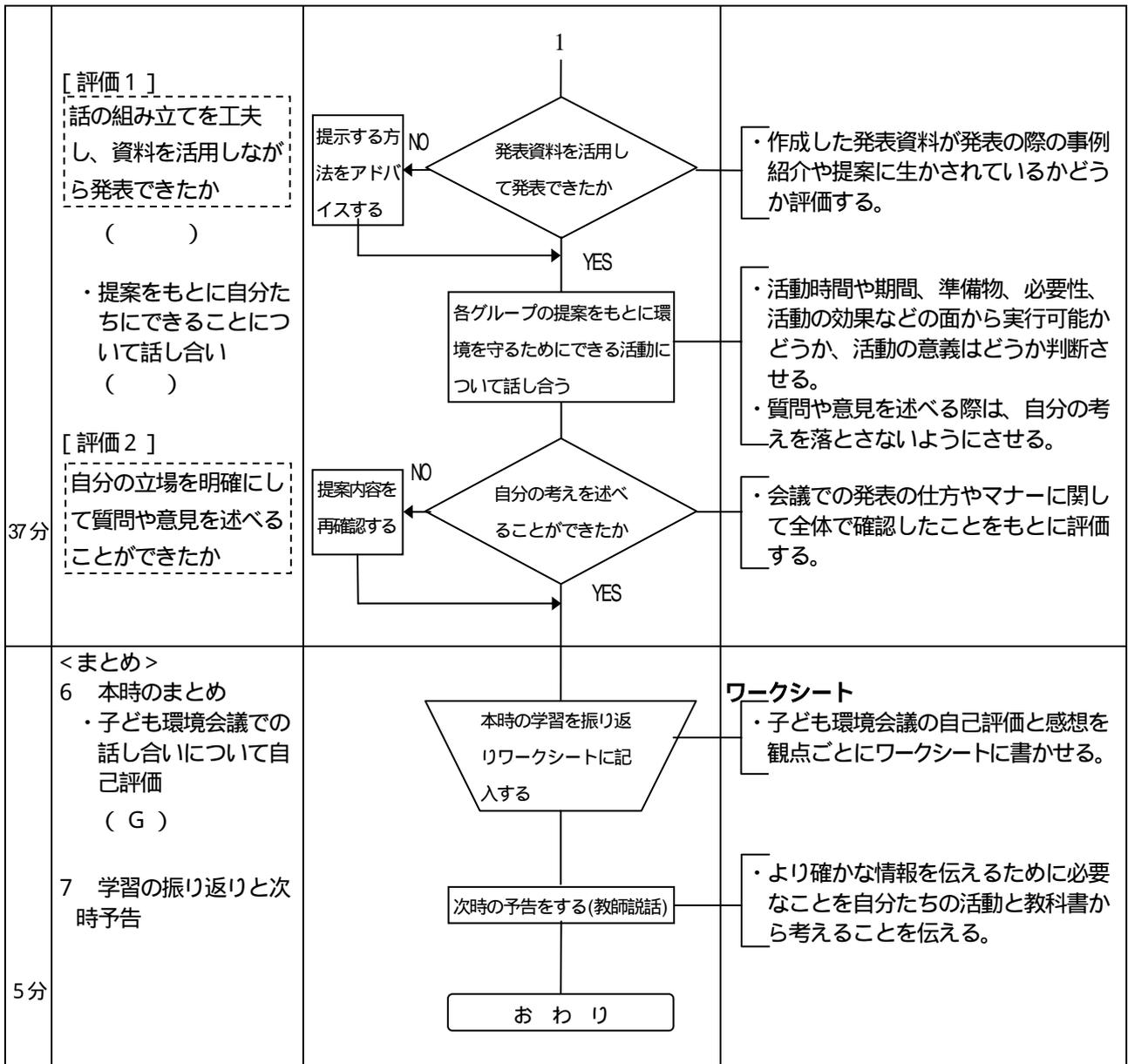
R 子ども環境会議を開く目的がいえる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
3分	<p><導入></p> <p>1 本時の活動の確認 ・子ども環境会議の進め方 ・プログラム ・発表資料と原稿の準備 (R R)</p> <p>2 課題把握 ・活動内容の確認 ・課題設定 (R)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>学習課題 身近な環境を守るためにできることを提案しよう。</p> </div> <p>(G)</p>	<p>はじめ</p> <p>会議の進め方と発表の順番、発表資料について確かめる</p> <p>子ども環境会議の目的を再確認し、学習課題を設定する</p> <p>子ども環境会議の目的がわかったか</p> <p>NO → 活動に取り組みを振り返る → YES</p>	<p>発表資料、発表原稿</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表資料は、事前に配布し、詳しく知りたいことや意見など考えておくようにする。 <p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体計画表でこれまでの活動をおおまかに振り返り、地球環境会議の位置づけをつかませる。 <p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に活動することを前提とした提案であることを確認し、主体的に参加できるようにする。
	<p><展開></p> <p>3 発表と話し合い。 ・提案とメモ () ()</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめのことば 会議のめあて 議長選出 各グループの提案 ・グループの提案 ・質問、意見 話し合い ・意見 ・学級の取り組みの採決 決まったことの確認 議長退任 先生から おわりのことば </div>	<p>作成した発表資料をもとに子ども環境会議で自分たちの提案を発表する</p> <p>ワークシートにメモをとり、自分たちの提案と比較しながら聞く</p> <p style="text-align: center;">1</p>	<p>発表資料、原稿、コンピュータ教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案の内容とともに発表する側と聞く側のマナーを確認する。 発表に必要な機器などは事前に準備し、入れ替えの間を最小限にする。 情報機器の利用も希望があれば認めていきたい。 <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> メモは提案内容と評価項目程度とし、発表を聞くことを重視する。 児童の評価は発表の内容から発表資料の内容が分かりやすいものであったかどうか判断させる。



7 資料および教材・資料

- 収集した各グループの資料
- メモ及び発表内容の評価用のワークシート
- 発表に必要な機器類

第6次（15 / 15時）「より確かな情報を得るため、伝えるための方法を考えよう」の学習指導

1 主題 「より確かな情報を得るため、伝えるための方法を考えよう」

2 指導目標

- ・教材文からより確かな情報を得るためには、また伝えるためにはどうしたらよいかを読み取ることができる。
- ・「子ども環境会議」のための情報収集において努力したこと、情報を伝えるときに気を付けたことを書くことにより、活動を振り返ることができる。

3 目標行動

教材名	主な学習活動	評価規準
より確かな情報を	教材を読んでより確かな「情報収集・情報加工・情報発信」をする効果的な方法について読み取る。	読 「より確かな情報」のとらえ方や伝え方を読み取っている。 (ワークシート)

4 下位目標行動とその関連

これからの情報収集・発信活動をよりよいものにするために必要なことをワークシートにまとめることができる。

これからの情報収集・発信活動をよりよいものにするために必要なことを見つけることができる。

複数の情報収集手段を用いる理由や情報の検証が必要な理由をワークシートに書くことができる。

複数の情報を比較検討する目的を述べることができる。

自分たちの発表資料作成の中で行った経験から、検証することの良さがいえる。

同じ対象について述べられている結論が違う場合があることに気付くことができる。

「いつ・どこで・だれが・どんな方法で・どんな目的で」調査したのかに気を付けて自分たちの発表資料に用いた情報を見直すことができる。

教科書「より確かな情報を」に述べられた情報を見直す観点を読み取ることができる。

必要な情報によってさまざまな収集手段を選択することの必要性に気付くことができる。

観点をもとに自分たちの情報収集手段を振り返り、良い点や改善点を見つけることができる。

教科書「より確かな情報を」に述べられた情報収集手段の振り返りの観点を読み取ることができる。

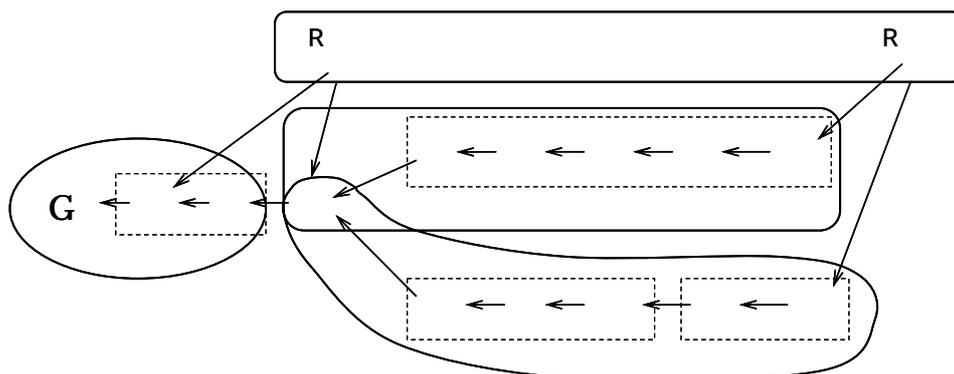
自分たちが取り組んだ情報収集手段の長所と短所がいえる。

活動を振り返り、自分たちが行った情報収集手段を述べることができる。

R 活動計画表から活動の見直しを行う理由がいえる。

R 分かったことを自分の言葉でまとめて書くことができる。

5 形成関係図とグループ分け



6 本時の展開過程

時間	主な学習内容	展開の流れ	教材・教具と留意事項
3分	<p><導入></p> <p>1 本時の活動の確認 ・「より確かな情報を」 ・前提条件 (R)</p> <p>2 課題把握 ・活動内容の確認 ・課題設定 (R)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習課題 より確かな情報を得るため、伝えるためにはどうしたらいいだろう。 (G) </div>		<p>紙板書</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体計画表でこれまでの活動をおおまかに振り返り、活動のまとめの時間であることをおさえる。 <p>発表資料、発表原稿</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども環境会議での発表資料と原稿、収集した資料を準備させる。 分かりやすい発表資料や会議での発表のために収集した情報が重要であったことをおさえる。
32分	<p><展開></p> <p>3 教科書の内容を読み取る。 ・より確かな情報を得るための方法 ・より確かな情報を伝えるための方法 ・確かな情報が重要な理由 ・ワークシートの記述 ()</p> <p>[評価1]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 確かな情報を得るため、伝えるためにはどうしたらよいか読み取ったことを書きまとめることができる。 </div> <p>4 発表資料作成を振り返る。 ・情報収集の方法 ・情報収集で努力したこと ・努力したこと ・気を付けたこと ()</p> <p>[評価2]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> よりよい情報の収集、伝達・発信をするために大切なことを書くことができる。 </div>		<p>発表資料、原稿、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を扱うときになぜ重要なのか理由をおさえさせる。 使われている用語の意味や違いをおさえる。 情報収集で複数の方法で調べる理由をおさえる。 確かな情報が調査報告で重要であることをおさえる グループ討議では読み取った観点について話し合わせ、自分たちの情報収集の方法や情報の確かさを確認させる。 これからの情報収集や発信において活動をよりよいものにするために必要な条件としてとらえさせたい。 気を付けたことが十分想起できない時は、教科書の内容をもとにこれから気を付けたいことを考えさせる。

10分	<p><まとめ></p> <p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り自己評価 (G) <p>6 単元のまとめと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・教師による評価 	<pre> graph TD 1[1] --> A[本時の学習を振り返りワークシートに記入する] A --> B[単元全体のまとめをする] B --> C[おわり] </pre>	<p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と発信・伝達についての自己評価と感想をワークシートに書かせる。 ・発表資料作成について単元全体から評価させる。 ・教師の評価にあたっては技能とともに児童の意識面の変化にふれる。
-----	---	--	--

7 資料および教材・資料

収集した各グループの資料

発表資料と原稿

ワークシート

書くことについての意識調査用紙